



## アジア健康構想

2026年1月15日開催「アジア健康構想におけるベトナムの保健課題解決を目指す  
日本企業交流セミナー」開催概要

内閣官房 健康・医療戦略室  
2026年2月

# 要旨

- 本セミナーは、2025年12月15日にベトナム・ハノイで開催したイベント「Viet Nam and Japan: Discussion for Future Cooperation Based on the Roadmap on Aging and Nutrition (ベトナムと日本:高齢化及び栄養分野に係るロードマップに基づく今後の協力に向けたディスカッション)」(以下「12月のイベント」)に参加した日本企業6社による成果報告を目的として開催された。
- 日本企業からは、12月のイベントへの参加を通じて得られたベトナムにおける事業成果や、ベトナム側から寄せられた期待、今後の取組方針等が共有された。また、有識者および政府関係者からは、今後の日越協力に対する期待やその方向性について意見が示された。



関係者の集合写真

# イベント概要

## [ 開催概要 ]

名称	アジア健康構想におけるベトナムの保健課題解決を目指す日本企業交流セミナー
目的	12月のイベント参加者のフォローアップ、ベトナムに進出中/進出予定の日本企業を対象とした現地の保健課題等の情報発信
主催	内閣官房 健康・医療戦略室
日時	2026年1月15日(木) 13:30-16:30 ※15:30-16:30は参加者交流会(現地参加のみ)
場所	株式会社三菱総合研究所 4階 大会議室

## [ プログラム ]

時間	アジェンダ	登壇者
13:30-13:35	開会挨拶	林 禎二 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使
13:35-13:45	令和7年度事業に関するご報告	内閣官房 健康・医療戦略室
13:45-14:30	12月のイベント参加企業からの成果発表	インフィック株式会社、ウェルコンサル株式会社、 パラマウントベッド株式会社、カーブジェン株式会社、 キッコーマンバイオケミファ株式会社、キューピー株式会社
14:30-14:40	12月のイベントの所感と日本に対する今後の期待について	Ho Thi Kim Thanh Vice Principal, Hanoi Medical University、 Nguyen Thuy Linh Head of Department of Nutrition & Dietetics, Hanoi Medical University Hospital
14:40-15:15	有識者によるパネルディスカッション	肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア、 研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長 五味 郁子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授 林 禎二 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使
15:15-15:25	日本政府・関係機関からのコメント	経済産業省、厚生労働省、 独立行政法人 国際協力機構(JICA)、 独立行政法人 日本貿易振興機構(JETRO)
15:25-15:30	閉会挨拶	林 禎二 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使
15:30-16:30	参加者交流会	

# 講演概要

## 〔開会挨拶〕



林 禎二 氏  
内閣官房 国際保健担当大使

- 内閣官房 健康・医療戦略室は、アジア各国の健康長寿社会の実現を日本として支援するため、アジア健康構想を推進している。ベトナムの保健省と2019年にヘルスケア分野における協力覚書を署名し、2022年にはグローバル戦略策定の下、ベトナムを重要なパートナー国として位置づけた。2024年には第2回日越ヘルスケア合同委員会を実施し、高齢化・栄養分野での連携強化を進めている。
- 2023年以降、ハノイ医科大学病院・ハノイ医科大学と取り組んでおり、2024年には、高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップを合意し、2025年には、本ロードマップに基づく今後の協力に向けたディスカッションを実施した。今年度は日本の高齢化対策や医療政策の知見共有、日本企業による製品・サービス紹介を通じ、連携の具体化が進んだ。
- ベトナムでは都市部を中心に高齢化が進展し、人口法改正も行われている。日本企業の進出が進む中、健康・医療、特に高齢化・栄養分野での協力とビジネスの可能性が一層高まっている。

## 〔令和7年度事業に関するご報告〕



内閣官房 健康・医療戦略室

- 「健康・医療戦略」(第3期)における「国際展開の促進」の一環として、「アジア健康構想」を推進している。アジア健康構想は、我が国の強みや相手国の状況等を考慮しながら、我が国の健康・医療関連産業の国際展開を推進することにより、我が国の企業の発展と海外における自律的な産業振興の両立を促進しつつ、アジア諸国における、疾病の予防、健康的な食習慣の普及、衛生的な街づくりなど裾野の広いヘルスケアの充実といった、裾野の広い健康・医療分野への貢献を目指すものである。
- ベトナムとは、2019年に二国間協力覚書を署名して以来、政府間のハイレベル諮問機関であるヘルスケア合同委員会(JCM)を2回にわたって開催してきた。
- 2024年11月には、ハノイ医科大学病院との共催で、ハノイにおいて高齢化・栄養分野のセミナーを開催し、日越協力のためのロードマップを合意した。2025年12月には、同じくハノイにおいて、同病院との共催により、「Viet Nam and Japan: Discussion for Future Cooperation Based on the Roadmap on Aging and Nutrition」を開催し、日本の高齢化・栄養に関する有識者からの知見共有や、日本企業によるソリューション紹介を行った。ベトナム側からは、急速な高齢化の進展、医療・介護人材の不足、高齢者の栄養管理強化の必要性等への言及とともに、今後の日本との連携深化への高い期待が示された。

# 講演概要

## [ 12月のイベント参加企業からの成果発表 ]



- 2000年以前から介護事業を展開、約10年前よりICT活用と海外展開を柱に事業を推進してきた。
- ASEANの都市部が進む高齢化を見据え、見守りセンサー等のICTシステムと人材循環を組み合わせ、退院後ケアを含む日本式介護の展開を目指している。

インフィック株式会社



- AI技術を強みとするスタートアップである。画像認識技術を活用した感染症・食品衛生分野のソリューションは、細菌検査の標準化・効率化を実現する。今後はベトナムにおいても、食品衛生や高齢者・栄養分野への応用を通じ、デジタル化とAI活用による新たな価値創出を目指す。

カーブジェン株式会社



- 地域包括ケアを軸に、医療・介護・福祉・教育を一体的に展開するグループとして、海外教育人材事業やICT活用を推進。モデル施設での見守り機器導入やIT化支援を進めつつ、ベトナムを起点に人材育成、地域包括ケア、日本式介護ノウハウの東南アジア展開を目指している。

ウェルコンサル株式会社



- 食中毒対策として、調理器具に残る洗浄残渣が二次汚染の主因となる点を示し、簡便に実施が可能な、ATP拭き取り検査による洗浄確認手法を紹介した。ベトナムでの実証でも高リスク箇所の減少が確認され、食中毒予防や医療機器の感染対策への応用可能性が示された。

キッコーマンバイオケミファ株式会社



- 非接触・非侵襲の睡眠センサーを活用した見守りソリューションを紹介した。睡眠状態や起床動作を把握し、施設等の夜間業務の効率化やケア改善に寄与できるソリューションである。ベトナムにおける退院後の施設の受け皿不足や人材不足の課題に対して、省力化を支える技術としての活用可能性がある。

パラマウントベッド株式会社



- サラダ文化の定着を通じた健康寿命延伸の取り組みを紹介した。野菜摂取による生活習慣病予防を軸に、日本およびベトナムで「サラダファースト」などの情報発信や社会貢献活動を展開している。健康寿命と平均寿命の差という課題に対し、日常食としてのサラダ普及に加え、ユニバーサルデザインフードなど市場における多様なニーズも注視しながら、ベトナムでの持続可能な健康づくりを目指す方針である。

キューピー株式会社

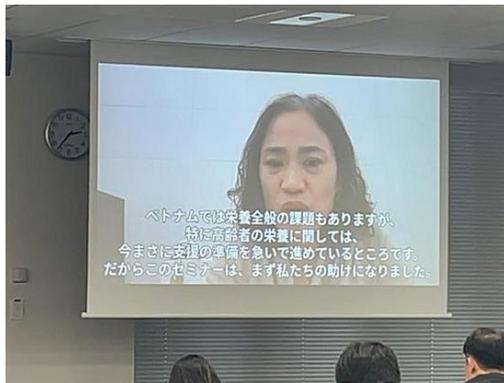
# 講演概要

## [ 12月のイベントの所感と日本に対する今後の期待について ]



**Assoc. Prof. Ho Thi Kim Thanh, MD, Ph.D.**  
Vice Principal, Hanoi Medical University  
Head of Family Medicine Department, Hanoi Medical University Hospital

- 12月のイベントでは、日本における高齢者の健康管理や人口高齢化への対応に関する動向・実践事例が示され、ベトナムの高齢者保健政策への示唆として高く評価している。
- 介護保険制度や高齢者ケアの提供モデル等は、ベトナムが今後参照すべき重要な知見である。また、日本企業3社からは、高齢者向け健康モニタリング機器、医療・介護現場での評価・ケア機器、栄養・健康支援製品等が紹介され、高い実用性と応用可能性を感じている。
- 今後は、日本政府の助言の下、ベトナムの社会経済状況に適合したモデル構築、人材育成、官民連携による協力深化が求められる。



**Assoc. Prof. Nguyen Thuy Linh, MD, Ph.D.**  
Head of Department of Nutrition & Dietetics, Hanoi Medical University Hospital  
Deputy Head of Department of Nutrition & Food Safety, Hanoi Medical University  
Copyright © Mitsubishi Research Institute

- 12月のイベントは、日本政府・主催者・日本企業とベトナム側が連携して開催され、高齢者栄養を中心に非常に有意義な内容であった。
- 特に、日本の高齢者栄養ケアや嚥下障害食の体系的な手法は、ベトナムにとって知見・動機付けの両面で大きな示唆を与えた。高齢者や地域住民向けに野菜摂取を促すソリューションや、細菌検査や食品安全性評価のための検査キット・技術は、課題の多いベトナムの栄養管理体制や食品安全管理体制の高度化に資するものと考えている。
- 先行する日本の高齢者向け栄養管理方法の視察や、人材の交流等を含め、引き続いた日本及びベトナムとの間における協力の深化に期待している。

# 講演概要

## 【 有識者によるパネルディスカッション 】



左から、

**肥後 裕輝 氏** 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア、研究教育機構（Q-AOS）エイジングモジュール長

**五味 郁子 氏** 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授

**林 禎二 氏** 内閣官房 国際保健担当大使

パネルディスカッションにおいては、以下の2点がトピックとして挙げられた。

- ① 各専門の中で、ベトナムが抱える保健課題の現状について特に注目している点について
- ② 今後のアジア健康構想の推進について

（パネルディスカッションにおける主な回答）

- ① • ベトナムでは既存の高齢化社会政策が事実上未発達なため、日本の知見・技術・民間連携を導入できる余地があり、それに向けた社会的関心や協力意欲は高まっている。
  - ベトナムでは、栄養・嚥下・介護分野ではこの10年で急速な進展が見られる一方、専門職や機器、制度面は課題があると考える。
  - 大規模制度構築を待つのも一案だが、小規模多機能型のケアや食事支援など、生活に近い場での「小さな成功例」を積み重ねることが、持続的な連携と普及の鍵である。
- ② • 現地理解を深めるには継続的な対話と現地を実際に見ることが不可欠であり、企業も含めた参加の場を今後さらに拡大していきたい。
  - 政府の企業支援・交流・研修制度は多様に存在するが十分に周知・活用されていない部分もあり、日本企業の海外展開のために更に戦略的に使っていただける余地があると考える。また、日本で介護経験を積んだベトナム人材が帰国後に十分に活躍できないなどの課題もあり、資格・制度設計を含めた日越双方にとって有効な政策を更に検討していきたい。

## 【 日本政府・関係機関からのコメント等 】



現地ニーズと日本の技術・製品を適合させることが重要である。経済産業省では、補助事業や情報提供、専門家相談等を通じ、ヘルスケア分野の国際展開を支援している。

**経済産業省**



医療協力では多様なソリューション・知見を共有・連携しオーダーメイド型の取組の質を高めることが重要である。厚生労働省としても、連携を通じ日本のプレゼンス向上に貢献したい。

**厚生労働省**



人材育成や制度強化を基盤に、高齢化対策や非感染性疾患対策や、ICT活用支援を推進している。民間企業との連携を重視し、海外展開初期から活用できる支援制度も提供する。

**JICA**



長年のベトナムでの企業活動が政府施策と結びつき成果を挙げていると実感した。支援策は積極的に使われてこそ意味がある。関係省庁と連携を一層強化し、ヘルスケア産業の海外展開を推進したい。

**JETRO**

## 【 閉会挨拶 】



**林 禎二 氏**

内閣官房 国際保健担当大使

- 本セミナーは、日本の経験や技術をベトナムの保健医療課題解決にどう生かすかを考える重要な機会となった。
- 今後の日本企業の具体的なビジネス展開を、関係省庁と連携して引き続き支援するとともに、医療保険分野でも日越協力を深化させていきたい。

# アンケート結果

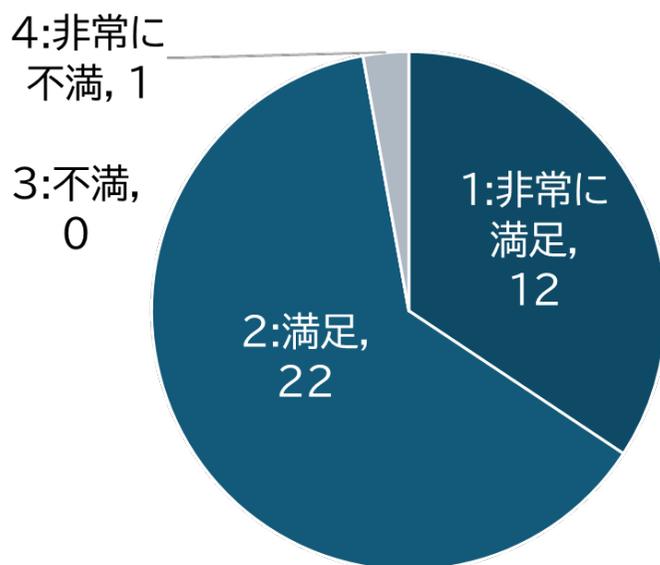
## ■ アンケート回答数は35件であった

- 対面・オンライン参加者(関係者除く)は80名であったため、回収率は約44%

## ■ セミナー全体の満足度としては、非常に満足・満足が約97%と、全体的に高い結果となった。また、今後のアジア健康構想関連のセミナー等で取り上げてほしいテーマや課題として、アジア諸国の健康・医療分野における、日本企業の海外展開に資する実践的情報への強いニーズや、今後期待する支援として、官民やベトナム現地連携を軸とした、継続的かつ伴走型の海外展開支援が確認された。

### [ アンケート回答結果(抜粋) ]

本日のセミナー全体のご満足度に関して、4段階でご評価ください。



今後、アジア健康構想関連のセミナー等で取り上げてほしいテーマや課題は何ですか。(以下、主な回答)

- 食や予防医療を切り口とした健康課題への対応や、非感染性疾患・先進医療をテーマとした内容を希望する。
- アジア(特にベトナム等)における医療・介護市場の動向、制度・規制、デジタル化、現地ニーズや日本企業の進出事例について知りたい。
- 日本企業の強みと海外展開時の課題、オーラルケアや看護・リハビリ分野、医療ツーリズムや海外投資なども取り上げていただけるとありがたい。

アジア健康構想に関連するビジネス展開に向けて、今後どのような支援を期待しますか。(以下、主な回答)

- 国別・テーマ別の官民交流や、現地医療機関・企業・仲介会社とのネットワーク構築など、実務につながる交流機会の継続・拡充を期待する。
- 学術機関と企業による国際共同研究への中長期的支援や、デジタル化を定着させるための継続的な補助金、事業が軌道に乗るまでの伴走支援を望む。
- 日本の介護知識・技術の形式知化と海外活用支援、販路拡大や国立病院医師との交流機会の創出にも期待する。